

諸 報 告

ページ

第 1 前回幹事会以降の経過報告

1	会長等出席行事	1
---	---------	---

第 2 各部・各委員会等報告

1	部会の開催とその議題	1
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	2
3	機能別委員会の開催とその議題	2
4	分野別委員会の開催とその議題	3
5	課題別委員会の開催とその議題	12
6	若手アカデミーの開催とその議題	13
7	サイエンスカフェの開催	14
8	総合科学技術・イノベーション会議報告	14
9	インパクト・レポート	14

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4月15日(土) ～4月16日(日)	日本学術会議主催公開シンポジウム 熊本地震・一周 年報告会 (熊本・熊本県庁)	大西会長
4月19日(水) ～4月21日(金)	STS フォーラムワークショップ (インドネシア・バリ)	大西会長
4月19日(水) ～4月23日(月)	ICSU「科学研究における自由と責任に関する委員会」 (CFRS) (フランス・パリ)	井野瀬副会長

(注) 部会、委員会等を除く。

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) **第一部会** (第8回) (4月13日) (4月14日)

①報告事項

- (i) 分野別委員会報告
- (ii) 第一部国際協力分科会報告
- (iii) 第一部科学と社会のあり方を再構築する分科会報告
- (iv) 第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会報告
- (v) 第一部総合ジェンダー分科会報告

②協議事項

- (i) 会員・連携会員の選考について
- (ii) 夏季部会について
- (iii) その他

(2) **第二部会** (第8回) (4月13日) (4月14日)

①分野別委員会からの報告

②総会での「第二部 活動報告」

③第24期会員・連携会員の選考について (非公開)

④夏季部会 (長崎開催) について

⑤学術大型研究計画の決定について

⑥分科会、検討委員会および幹事会からの報告

- (i) 安全保障と学術に関する検討委員会
- (ii) 医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討会
- (iii) 学術振興の観点から国立大学の教育研究と

国による支援のあり方を考える検討委員会

(iv) 生命科学における公的研究資金のあり方検討分科会

- ⑦生命科学分野における参照基準作成状況について
- ⑧第二部査読体制について
- ⑨日本学術会議の移転問題について
- ⑩旅費等の執行状況・予算について
- ⑪その他

(3) **第三部会** (第8回) (4月13日) (4月14日)

- ① 各委員会からの活動報告
- ② 次回第三部夏季部会について
- ③ 提言・報告等の策定状況について
- ④ 平成29年度4～9月の第三部関連の会議開催計画について
- ⑤ その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

なし

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) **科学と社会委員会 Gender Summit 10 分科会** (第3回) (4月13日)

- ① Gender Summit 10 開催に向けて
- ② 今後の分科会の進め方について
- ③ その他

(2) **科学と社会委員会 科学力増進分科会** (第5回) (4月13日)

- ①文部科学省とのサイエンスカフェについて
- ②全国絨毯サイエンスカフェについて
- ③サイエンスアゴラについて
- ④今後の科学力増進分科会の方向性と報告事項
- ⑤その他

(3) **科学者委員会 男女共同参画分科会** (第11回) (4月14日)

- ① GS10開催準備状況の報告について
- ② 今後の分科会の進め方について
- ③ その他

(4) **選考委員会 理学・工学選考分科会** (第2回) (4月21日)

- ① 前回の議事要旨の確認

- ② 会員候補者の選考について
- ③ 連携会員候補者の選考について
- ④ その他

(5) **選考委員会 生命科学選考分科会**（第2回）（4月24日）

- ① 前回の議事要旨の確認
- ② 会員候補者の選考について
- ③ 連携会員候補者の選考について
- ④ その他

(6) **国際委員会**（第31回）（4月27日）

- ① 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」の改正について
- ② 平成29年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）について
- ③ 第17回アジア学術会議代表派遣及び招へい者について
- ④ ブルネイの学術機関等との会合に係る会員の派遣について
- ⑤ 国際業務に参画するための特任連携会員の推薦について

(7) **選考委員会**（第16回）（4月28日）

- ① 前回の議事要旨の確認
- ② 会員候補者の選考について
- ③ その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) **経営学委員会**（第10回）（4月13日）

- ① 分科会活動報告
- ② 今後の経営学委員会活動について
- ③ 第24期経営学委員会活動について
- ④ その他

(2) **社会学委員会**（第6回）（4月13日）

- ① 今期のこれまでの課題
- ② 今後の活動
- ③ その他

(3) **法学委員会**（第6回）（4月13日）

- ① 次期会員・連携会員選考について

- ②分科会の状況について
- ③その他

(4) **心理学・教育学委員会**（第6回）（4月13日）

- ①心理学・教育学の現在の問題について
- ②国家資格（公認心理士）問題について
- ③その他

(5) **哲学委員会**（第9回）（4月13日）

- ①公開シンポジウムについて
- ②幹事会・第一部役員会の報告
- ③その他

(6) **言語・文学委員会**（第8回）（4月13日）

- ①分科会の提言について
- ②会員・連携会員の推薦について
- ③その他

(7) **史学委員会**（第6回）（4月14日）

- ①各分科会の活動報告
- ②第23期の総括と第24期への引継ぎについて
- ③第24期の会員推薦について
- ④その他

(8) **経済学委員会**（第7回）（4月14日）

- ①新会員について
- ②日本経済学会との連会について
- ③その他

(9) **地域研究委員会**（第8回）（4月14日）

- ①各分科会の活動状況について
- ②次期における活動について
- ③その他

(10) **政治学委員会**（第11回）（4月14日）

- ①今後の事業計画について
- ②その他

(11) **政治学委員会 政治過程分科会**（第7回）（4月14日）

- ① 6 月に実施予定の明治大学附属明治高等学校での主権者教育授業について
- ② その他

(12) 第一部 国際協力分科会 (第 9 回) (4 月 15 日)

- ① WSSF 組織委員会の活動および ISSC と ICSU の合同について
- ② IFSSO への長期的対応について
- ③ 代表派遣について
- ④ その他
- ⑤ AASSREC 北京会議の準備と学術フォーラムについて

(13) 地球研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 地球環境変化の人的側面分科会 (HD) 分科会 (第 9 回) (4 月 17 日)

- ① フューチャー・アース等への対応について
- ② 公開シンポジウムについて
- ③ 「学術の動向」の特集について
- ④ JpGU/AGU 2017 年大会の関連セッションについて
- ⑤ その他

(14) 心理学・教育学委員会 脳と意識分科会 (第 9 回) (4 月 21 日)

- ① 提言の最終確認と提出手続きについて
- ② 合同シンポジウムについて
- ③ その他

(15) 経営学委員会 地域経営学の研究・教育のあり方検討分科会 (第 9 回) (4 月 22 日)

- ① 報告: 「アメリカのシティーマネージャー制度について」
- ② 討論: 地域経営学に関する分科会の論点について
- ③ 最終報告書の目次案について
- ④ 今後の活動について
- ⑤ その他

(16) 経営学委員会 経営学大学院教育のあり方検討分科会 (第 9 回) (4 月 22 日)

- ① 日本学術会議会報告:
「わが国の経営学大学院教育のあり方について
～高度専門職業人教育を中心にして～」について
- ② 討論: 報告書の普及広報について (シンポジウム開催計画等)
- ③ その他

(17) 史学委員会 文化財の保護と活用に関する分科会 (第 8 回) (4 月 24 日)

- ① 提言案の検討について

②その他

(18) **地域研究委員会 アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会**（第5回）、**地域統合分科会**（第4回）**合同分科会**（4月24日）

①アジアの地域協力の制度化に向けて（報告・討論）

（i）岩谷 滋雄氏（リングハウス教育研究所理事長、
元外務省日中韓三国協力前事務局長）

「日中韓三国協力の実態と今後の課題」

（ii）吉川 元氏（広島市立大学広島平和研究所所長）

「OSCE（全欧安保協力機構）の意義とアジアの地域協力の制度化」

②分科会のまとめについて（シンポジウム計画等）

③その他

第二部担当

(1) **基礎医学委員会**（第4回）（4月13日）

①次期委員長の選出について

②基礎医学領域における諸問題について

③その他

(2) **基礎生物学委員会**（第6回）、**統合生物学委員会**（第6回）**合同会議**（4月13日）

①各分科会の活動の状況と活動予定の報告

（特に今期での提言・報告の表出の可能性について）

②基礎生物学委員会と統合生物学委員会の合同の活動について

③その他

(3) **農学委員会**（第8回）、**食料科学委員会**（第8回）**合同会議**（4月14日）

①名古屋議定書関連検討分科会の活動状況について

②分科会活動報告について

③夏季の両委員会合同会議と市民公開シンポジウムについて

④その他

(4) **臨床医学委員会**（第7回）（4月14日）

①各分科会からの活動報告

②医学研究等における個人情報の取扱い等に関する合同会議の審議結果について

③その他

(5) **歯学委員会**（第11回）（4月14日）

①歯学分野における第23期の大型研究計画について

- ②提言：広域災害時における歯科医療提供体制について
- ③報告：分野別質保障のための教育課程編成上の参照基準・歯学分野について
- ④今期の今後のシンポジウム開催予定について
- ⑤その他

(6) 農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 東日本大震災に係る食料問題分科会（第7回）（4月14日）

- ①シンポジウムの準備状況について
- ②第22期および第23期の活動の記録としての取りまとめについて
- ③分科会の今後の進め方について
- ④その他

(7) 薬学委員会 医療系薬学分科会（第5回）（4月18日）

- ①「医療の発展に必要な医療系薬学研究のあり方」に関する提言について
- ②今後の活動計画について
- ③その他

(8) 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育分科会（第11回）（4月18日）

- ①次回提言の検討事項について
- ②その他

(9) 食料科学委員会 畜産学分科会（第7回）（4月19日）

- ①前回分科会以降の報告事項
- ②対外報告（案）の確認と今後の取り扱い
- ③公開講演会・シンポジウムの共催等
- ④今後の日本畜産学アカデミーの運営
- ⑤その他

(10) 薬学委員会 チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会（第5回）（4月20日）

- ①第23期の報告について
- ②その他

(11) 基礎医学委員会 病原体学分科会（第5回）（4月21日）

- ①今年度の活動方針
- ②「わが国における微生物教育のリテラシー」に関する提言について
- ③その他

(12) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 総合微生物科学分科会(第5回)、基礎生物学委員会・農学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 IU MS分科会(第5回)、基礎医学委員会 病原体学分科会(第5回) 合同会議(4月21日)

- ①総合微生物科学分科会について
- ②IU MS分科会について
- ③病原体学分科会について
- ④日本微生物学連盟28年度決算案、平成29年度予算案について
- ⑤日本微生物学連盟主催フォーラムについて
- ⑥日本微生物学連盟加盟学術団体の紹介
- ⑦生物多様性条約と名古屋議定書について
- ⑧大村智先生記念講演会について
- ⑨初等・中等教育における微生物の教育について
- ⑩環境微生物系学会合同大会2017について
- ⑪次回の分科会合同会議・連盟理事会について
- ⑫その他

(13) 食料科学委員会 水産学分科会(第13回)(4月25日)

- ①公開シンポジウムの開催について
- ②提言案「わが国における持続可能な水産業のあり方」について
- ③提言案「わが国における持続可能な水産業のあり方ーその2」について
- ④その他

(14) 農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会(第8回)(4月27日)

- ①公開シンポジウム「食・農・健に関する国際フォーラム」の開催報告
- ②公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム2017-環境汚染と内部被曝問題-」の共催について
- ③分科会の活動報告について(H28 下半期)
- ④WGの活動報告について
- ⑤次回分科会について
- ⑥その他

(15) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUPAB分科会(第5回)、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物物理学分科会(第5回)、合同会議(4月27日)

- ①2023 IUPAB congress (IBC) 誘致活動について
- ②「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」ヒアリング結果の報告と今後の計画

- ③公開シンポジウムの開催について
- ④前期「報告」を「提言」に練り直すことについて
- ⑤次回分科会の開催予定について
- ⑥その他
 - ・日本生物物理学会理事会からの報告

(16) **農学委員会・食料科学委員会合同 C I G R分科会**（第6回）（4月27日）

- ①第20回 World Congress（2022年）の推進体制について
- ②2017 CIGR Workshop in Matsuyama
- ③その他

第三部担当

(1) **化学委員会**（第10回）（4月13日）

- ① 前回議事要旨（案）の確認
- ② 分子研究所長招聘会議について
- ③ 化学委員会各分科会作成の記録案について
- ④ その他

(2) **数理科学委員会**（第5回）（4月13日）

- ①「数理科学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けた提言」について
- ②その他

(3) **情報学委員会 ユビキタス状況認識社会基盤分科会**（第6回）（4月13日）

- ① 前回議事録（案）の確認
- ② 分科会からの提言について
 - 「オープンイノベーションに資するソーシャルオープンデータに関する提言」の進捗
- ③ 分科会主催公開シンポジウムについて
- ④ その他

(4) **情報学委員会**（第10回）（4月14日）

- ① 光と影シンポジウムについて
- ② 分科会設立について
- ③ その他

(5) **機械工学委員会 機械工学企画分科会**（第5回）（4月14日）

- ① 前回議事録（案）の確認
- ② 学会との連携について
- ③ 会員、連携会員について

- ④ 大型研究計画およびマスタープランについて
- ⑤ 意見交換
- ⑥ その他

(6) **電気電子工学委員会** (第8回) (4月14日)

- ① 前回議事録(案)の確認
- ② 今期「報告」(案)について
- ③ 分科会の活動報告
- ④ その他

(7) **統合生物学委員会・環境学委員会合同 自然環境保全再生分科会** (第5回) (4月17日)

- ① 提言のフォローアップと大型研究計画について
- ② 生態系を活用した防災・減災に関する国際的な動き、国内の動き、政策及び関連研究に関する情報交換
- ③ 公開シンポジウムの開催について
- ④ その他

(8) **機械工学委員会 ロボット学分科会** (第4回) (4月18日)

- ① 前回議事録(案)の確認
- ② ロボットに関係する現状の意見交換
- ③ 23期学術会議としてのとりまとめ方針
- ④ 期のロボット学分科会の申請の方向性
- ⑤ その他

(9) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 安全目標の検討小委員会** (第17回) (4月19日)

- ① 前回議事録の確認
- ② 安全安心リスク検討分科会における本委員会の「報告」案に関するコメント
- ③ 「報告」の本文及び参考資料の確認とコメント等への対応
- ④ 今後の進め方
- ⑤ 安全工学シンポジウム
- ⑥ その他

(10) **総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC分科会** (第3回) (4月21日)

- ① IFAC2023の準備について
- ② 自動制御連合講演会について
- ③ 協議会設置について
- ④ IFAC活動について (Office や TC メンバーのノミネーション等)

⑤ その他

(11) 総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC分科会 自動制御の多分野応用小委員会 (第4回) (4月21日)

- ① 前回委員会議事録確認
- ② 自動制御連合講演会運営に関する事項
 - (i) 第59回自動制御連合講演会報告
 - (ii) 制御工学教員協議会報告
 - (iii) 第60回自動制御連合講演会準備状況
 - (iv) 同制御工学教員協議会計画
 - (v) 第61回自動制御連合講演会計画
- ③ IFAC 分科会の活動について
- ④ 今後の活動計画

(12) 土木工学・建築学委員会 巨大津波に対する国土計画と防災・減災分科会 (第3回) (4月21日)

- ① 話題提供と審議(1): 仙田委員
- ② 話題提供と審議(2): 福井委員
- ③ 今期の成果について

(13) 材料工学委員会 材料工学将来展開分科会 (第8回) (4月22日)

- ① 「高校生への材料工学系の知識の普及のための対策と具体的活動の検討」
奈良女子大学 吉田信也先生
- ② 「女子学生の工学系専攻への啓蒙活動及び
女性研究者・技術者を育成するための対策と活動の検討」
京都大学名誉教授 戸部博先生
- ③ 提言について

(14) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会 (第4回) (4月24日)

- ① 記録「研究炉の長期停止に伴う影響調査」の検討
- ② 提言「大学における非密封放射性同位元素使用施設について」の検討
- ③ その他

(15) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会 (第11回) (4月24日)

- ① 今期表出文書について
- ② 安全工学シンポジウム2017参加の件

① その他

(16) **健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会**（第8回）（4月24日）

- ①報告書案と査読結果
- ②今後の課題
- ③合同分科会で議論すべきこと

(17) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 車の自動運転検討小委員会**（第11回）（4月26日）

- ①委員長挨拶
- ②話題提供（講師未定）
- ③「提言」の最終案
- ⑤ 安全工学シンポジウムについて

(18) **土木工学・建築学委員会 インフラ健全化システム分科会**（第9回）（4月27日）

- ① 第8回インフラ健全化システム分科会議事録案の確認
- ② 話題提供：
 - 大西 有三先生「地下利用に関する国の審議状況（仮）」
 - 北田奈緒子先生「地盤調査・試験・計測について（仮）」
- ③ 公開シンポジウムの実施要領に関する審議
 - 飯尾 潤先生（公開シンポジウムの事前審議への参加）
 - 宇賀克也先生（公開シンポジウムの事前審議への参加）
- ④ 関連情報
- ⑤ 今後の予定など

(19) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する 安全・安心・リスク検討分科会**（第9回）（4月27日）

- ①小委員会活動の報告
 - ・安全目標小委員会
 - ・車の自動運転検討小委員会
 - ・老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会
- ②話題提供「車の自動運転の様々な課題とその解決の展開について」
宮寄拓郎氏（㈱NTT データアイ特別参与、元国土交通省自動車交通局技術安全部長）
- ③今期および来期活動について
- ④その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 東日本大震災に係る学術調査検討委員会拡大役員会（第5回）（4月17日）

- ①提言のとりまとめについて
- ②その他

(2) フューチャー・アースの推進に関する委員会フューチャー・アースの国際的展開対応分科会（第15回）（4月18日）

- ①「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」の改正について
- ②平成29年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）について
- ③ベルモントフォーラムの協働研究アクション「災害リスク軽減とレジリエンス」に関するスコーピング会議へ連携会員を派遣することについて
- ④その他

(3) フューチャー・アースの推進に関する委員会（第12回）（4月18日）

- ① 前回議事要旨案の確認
- ② F E の国際動向（モントリオールでの合同委員会、統括会議の報告など）
- ③ F E の国内体制について（関連 GEC 分野との連携・協力体制など）
- ④ F E の今後の研究推進と予算措置へ向けた方策
- ⑤ F E 推進に向けたオープンな研究活動
- ⑥ 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」等の改正について
- ⑦ その他

(4) 医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会（第7回）（4月21日）

- ①今後の論点整理について
- ②公開シンポジウムについて
- ③今後の日程について
- ④その他

(5) 東日本大震災に係る学術調査検討委員会（第8回）（4月24日）

- ①提言のとりまとめについて
- ②その他

6 若手アカデミーの開催とその議題

(1) 若手アカデミー会議（第5回）（4月21日）

- ①新メンバー紹介
- ②地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化について（シンポジウム開催地等）

③その他

(2) 若手アカデミー 若手科学者ネットワーク分科会（第6回）（4月21日）

①若手科学者サミットの開催について

②その他

7 サイエンスカフェの開催

なし

8 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

4月21日 第29回総合科学技術・イノベーション会議

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

4月20日 欠席

4月27日 欠席

9 インパクト・レポート（全3件）

(1) 提言「『歴史総合』に期待されるもの」インパクト・レポート

1 提言内容

- ・ グローバルな視野の中で現代世界とそこにおける日本の過去と現在、そして未来を主体的・総合的に考えることを可能にする歴史教育をめざし、高校の教育課程に従来の「世界史」と「日本史」を総合した新科目を開設することが重要になっている。そこで、中央教育審議会が「歴史総合」と名づけ議論を進めている新科目の内容について考慮を要する点を提言にまとめた。
- ・ 「歴史総合」科目に期待される内容として（1）時系列に沿って学び、主題学習を重視すること、（2）15-16世紀以降の近現代を中心に学ぶこと、（3）世界と日本の歴史を結びつけて学ぶこと、（4）能動的に歴史を学ぶ力を身につけること、の4点を挙げるとともに、関連して対応を考えるべき課題として、教員養成と現職研

修、大学入試改革などの問題にも言及した。

2 提言の年月日

平成28年5月16日

3 社会的インパクト

(1) 政策

中央教育審議会がまとめた答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月21日）の中に本「提言」の内容が、ある程度、反映された。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

日本歴史学協会と日本学術会議の共催で開いたシンポジウム(2016年10月22日、駒澤大学)でも、「提言」を念頭に置いた議論が進められ、民間の高大連携歴史教育研究会のシンポジウム(同年7月31日、神戸大学附属中等学校)でも、「提言」を踏まえ、「歴史総合」科目に関わる諸問題が話し合われた。

4 メディア

- ・NHK News Web 2016年5月16日 17時02分
- ・教育新聞(平成28年5月16日)
- ・共同通信(平成28年5月17日配信)

5 考察と自己点検

高校歴史教育のあり方をめぐり、2011年と2014年に出された日本学術会議の「提言」は、世論全体の赴くところと政府の政策を主導する役割を果たしてきたといっても過言ではない。今回の「提言」も、そうした蓄積を踏まえ、ある程度の役割を果たしたように思われる。引き続き、取り組みを持続していくことが求められるであろう。

インパクト・レポート作成責任者
史学委員会高校歴史教育に関する分科会委員長 久保 亨

(2) 提言「未来を見すえた高校公民科倫理教育の創生―〈考える「倫理」〉の実現に向けて―」インパクト・レポート

1 提言内容

(背景)

教育をめぐる国内外の議論はほぼ一致して、いま求められているのが、自ら考え自ら判断し自ら実践する能力、根源的な問いを問い続ける思考力、他者と人間的に向き合う力、

社会に参画する「市民」としての資質の向上であることを指摘している。これらは学校教育全体の目標であるが、高等学校においてこれらの資質・能力の育成に大きな役割を果たすはずの科目が公民科「倫理」であった。だが、現在の「倫理」教育は、内容の点でも、それが置かれている状況の点でも、その目標に合うものになっていない。

(提言内容)

- (1) 従来の〈知識中心の「倫理」〉教育から、〈考える「倫理」〉教育への転換を提案する。具体的には、主体的・対話的・批判的・創造的な思考力の育成を「倫理の目標」とすること、そして、これらの思考力を育成するのにふさわしい技法として、いわゆる哲学的対話と原典の一節を読ませることを授業の二つの柱とすること、が求められる。そして、この〈考える「倫理」〉を、人間形成の中核となる科目であると同時に倫理的な事柄を学問的に扱う科目として高校教育全体のなかに位置づけ、他教科、他科目との連携を図ること、を提案する。
- (2) 〈考える「倫理」〉教育の実現に向けて環境を整備するために、第一に、専門外の教員にも教えやすいよう、知識として最低限必要とされることを明示する一方で、多様な考え方の方向性や現代とのつながりなどを追いややすくするために、教科書で扱う人物を現状の3分の1程度に削減することを教科書執筆者および教科書出版社に対して提案する。第二に、大学入試の方法等を〈考える「倫理」〉の趣旨に沿ったものにすることを提案する。第三に、教員の研修、養成のシステムを整備するために、高校教員に対しては、思考力の養成に適する教材やノウハウを共有する場を作り、積極的に活用することを、大学の関係者に対しては、思考力の養成に有効な手法や教材の開発に努め、大学の教員養成課程の哲学・倫理学・宗教学の授業において学生主体型の授業方法を積極的に導入することを、関連学会に対しては、指導方法や教材について開発された成果を高校現場に普及させ、研究者と高校教員との連携を図ることを、地方自治体の教育関係者には、「倫理」を開講できるための様々な環境整備をはかることを、提案する。

2 提言の年月日

平成 27 年 5 月 28 日

3 社会的インパクト

(1) 政策

本提言が出されたのは中央教育審議会でも高等学校学習指導要領の改定に向けた検討がなされている最中であった。このため同審議会初等中等教育分科会の社会・地理歴史・公民ワーキンググループ、高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム、考える道徳への転換に向けたワーキンググループなどで議論の参考とされ、学習指導要領の内容に一定の影響を及ぼすことができた。また、文科省の担当者からも内容に関して好意的なコメントをもらうことができた。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

学協会への影響としては、本提言を受け、哲学系三学会（日本哲学会・日本倫理学会・

日本宗教学会) 合同企画として、「〈考える力〉を伸ばす哲学・倫理・宗教教育とは ―未来を見すえた教育の創生―」をテーマに、三学会がそれぞれの年次大会時にパネルやワークショップを開催した。

三学会がこのような合同企画を実施したのは初めてのことであり、教育に対する高い問題意識が共有されていることがわかる。日本哲学会は、提言に先立つ平成 27 年 5 月 14 日に開催された哲学教育ワークショップ「シティズンシップ教育と哲学教育」(参加者約 200 名)をもとに、学会誌『哲学』(N0.66 平成 28 年)で議論の紹介を行った。日本宗教学会では、平成 27 年 9 月 5 日に、日本宗教研究諸学会連合との共催として、海外の研究者も招聘し、特別パネル「〈考える「倫理」〉の授業における宗教学の役割―市民性教育との関係―」を開催し、議論を深めた(参加者約 100 名)。日本倫理学会は平成 27 年 10 月 4 日に、学会主催の大会共通課題として「倫理教育の未来に向けて」を開催し、大学、高校教員の間で議論を深めた。(参加者約 80 名。『倫理学年報』第 65 集、2016 年 p.5~p.51 に再録)。

宗教学会のパネリストの中には、東京都高等学校公民科「倫理」・「現代社会」研究会ほか、高校教員の研究会にて同テーマで招聘講演を行った者もいる。

4 メディア

日本教育新聞(平成 27 年 6 月 8 日版)「「考える倫理」へ転換を／哲学的対話など提言」という記事で提言が紹介された。

中部経済新聞(平成 28 年 12 月 1 日版)の「ニッポンの人づくり(4)」という記事で提言について紹介がなされた。

5 考察と自己点検

本提言は、高等学校における「倫理」の理念を再検討し、その方向転換を目指すものであった。文部科学省でも、初等中等教育におけるアクティブラーニングへの転換が検討されている折でもあり、その中で「倫理」に関わる科目内容の重要性と「倫理」固有の課題を提示したことで、本提言は関係者に対して大きな意義を持ったと言える。併せて、本提言では具体的な教育内容に踏み込んだ記述をし、そのための補足資料も添付したが、これらは学習指導要領にかぎらず、教科書や教育現場に至るまでの様々な過程における理念の具体化に貢献するものと思われる。

インパクト・レポート作成責任者
哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会委員長 氣多 雅子

(3) 提言「初等中等教育における算数・数学教育の改善についての提言」インパクト・レポート

1 提言内容

- 1) 初等中等教育における統計教育の目的は、身近な問題解決と意思決定に統計学を活用する態度と能力を育成することにある。しかし、現在の初等中等教育の算数・数学

教育においては、統計教育が質・量とも不足している。これを改善すべきである。

- 2) 数や式の計算が、電卓や数式処理プログラムなどにより代替可能な時代背景を踏まえ、ICT (Information and Communication Technology) を算数・数学の探究ツールとして利用することを念頭において、初等中等教育の教育課程を再編すべきである。
- 3) グローバル社会を生き抜くためには、数学的活動の質量両面の充実が欠かせない。そのためには、中学校・高等学校の数学において「課題学習」を現在より拡充すべきである。また中学校の「総合的な学習の時間」の中に「科学技術教育」を位置づけ、高等学校での「数理探究」(仮称)の素地学習とすべきである。
- 4) 以上1)、2)、3)のような算数・数学教育の改善を行うためには、中学校の各学年で週当たり4時間の授業を配当すべきである。
- 5) 高等学校教育においては、大学教育における線形代数学の学習との接続を改善するため、「数学Ⅲ」の「平面上の曲線」の内容を精選し、現行課程で削除された旧課程の「行列とその応用」の内容を復活すべきである。
- 6) 高等学校数学科の「数学A」と「数学B」では、教育効率を改善するため、単元選択をやめ、内容を精選し、必要な内容を効率的に教えるべきである。
- 7) 現代社会において重要な統計教育を今より充実すべきであり、特に現行の高等学校学習指導要領の「数学B」にある「確率分布と統計的な推測」は、教科書とICTを活用した教材を併用して、現行の学習指導要領で記載されている内容の定着を図るべきである。
- 8) 高等学校での「数理探究」(仮称)は、数学と理科の知識や技能を総合的に活用し主体的な探究活動を行うものであり、より多くの高校で履修されるようにすべきである。

2 提言の年月日

平成28年5月19日

3 社会的インパクト

(1) 政策

文部科学省は、幼稚園・小学校・中学校の学習指導要領の改革案を公表したが、高等学校の学習指導要領案については現在検討中である。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

一般社団法人日本数学会は、複数回教育シンポジウムを開き高等学校の学習指導要領について検討を行った。

『学術の動向』では、本年の1月号で特集『これからの教科・科目特集』を組んだ。

4 メディア

- ・毎日新聞(平成29年2月15日)社説
新学習指導要領 がんじがらめは避けよ

・朝日新聞社説（平成29年2月15日）
学習指導要領 現場の創意を大切に
他に、河北新報、神戸新聞、京都新聞なども出している。

5 考察と自己点検

上記提言の1)～3)については尊重されたと思うが、残念ながら時間数の増加を求める提言4)は採択されなかった。上記提言の5)～8)については未定だが、採択されることを希望している。

インパクト・レポート作成責任者
数理科学委員会数学教育分科会委員長 森田 康夫